2025年度を顧みて

事務長　**小関　秀和**

2025年度は急性期病院としてあるべき姿に戻り、救急医療・手術・内科外科・リハビリテーションなど、求められる医療へのシフトの足掛かりとなる一年でした。脳卒中、循環器疾患もタイムリーに医療提供を行い、救急搬送件数も増加、病床稼働も向上傾向となりました。また、昨年度新たに開始したAIやRPAを活用し、業務効率化の取り組みを加速させる一年にもなりました。

AI・RPAは積極的に活用を行い、様々な業務の効率化に成功しました。その成功した事例を日本医療マネジメント学会などで発表し、さらにAI・RPAを推進するモチベーションとなりました。

医療機関を取り巻く環境は依然として大変厳しく、特に当院のような急性期病院は診療報酬の各種基準も年々ハードルが上がり、ふるい落としのターゲットとなっております。物価高・人件費増・人員不足は深刻な状況となり、病院経営は苦境に立たされています。一部では2026年診療報酬改定にてプラス改定とも言われていますが、それでも急激な物価高騰には追いついておらず、困難な状況は変わりません。

この状況は今後もまだまだ続くことが予想されますが、限られた資源を最大限に活用し、当院の使命である「質の高い急性期医療を通じて地域社会に貢献する」を実現するべく、職員一同努力してまいります。

●2025年度実績

紹介患者数・紹介率	P.166～の『地域医療連携室』の章をご参照ください
入院患者数・平均在院日数	P.20～の『統計』の章をご参照ください
救急搬送数	P.20～の『統計』の章をご参照ください
手術件数	P.20～の『統計』の章をご参照ください